

豊田工業高等専門学校 平成25年度 自己点検評価書

	平成25年度年度計画(4月提出)の概要	平成25年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
		<p>○教育理念・目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年8月30日開催の総務会議において、「豊田工業高等専門学校教育目標等に関する規程」の制定について審議を行った。 平成26年3月12日開催の教務委員会において、学校教育目標・学科教育目標・科目関連表の表現の統一及び内容変更の有無等について検討を開始した。 	<p>○ 教育目標等について、議論・検討を行っている。</p>
<p>【1. 教育に関する事項】 (1)入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</p>	<p>①入試制度見直しの検討 選抜方法等見直しの実施結果について検証するとともに、合格者全体のレベルアップを図る方策を更に探求し、実施する。入試方法については、引き続き入試方法については検討を続け、優秀な志願者確保のための改善を行う。 ②志願者確保のための取組、入試広報の実施計画 学校説明会、オープンキャンパス、全教員による学校訪問、学生の卒業中学校訪問、中学校進路指導教員との情報交換会の企画、中学校長会でのPRを行う。 また、校長が中学校へ個別に訪問し、本校のPR及び情報交換を行う。 入試に関する広報の重点地区を設定し、その地区の各中学校進路担当教諭との情報交換の場を設ける。 業者による私学対象の高校説明会などへも参加を計画し、より多くの中学生に情報提供を行う。また、潜在的な入学志願者である小学生やその保護者を対象として、高専への理解と関心を深める施策を実施する。 ③女子学生志願者の確保への取組計画 女性教員の採用推進、女子更衣室・女子トイレの増設に努める。</p>	<p>①入試制度見直しの検討 採点方式をA方式からB方式に変更した。B方式の導入が初めてだったこともあり、手順に多少のずれがあり、時間のロスがあったので、今後は効率的に進められるよう、OA機器の充実を図り、採点手順マニュアルを充実させたい。 ②志願者確保のための取組、入試広報の実施計画 ・6/28に開催された市内小中学校校長会に出席し、学校説明及び今年度の学校説明会、オープンキャンパス等の行事のPRをし、本校の教育システムへの理解周知を図り、進学先の一つとして選択されるようアピールをした。 ・昨年に引き続き、愛知県及び隣接県の主な中学校の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に学内外で行う「学校説明会」を6月から12月にかけて15会場で開催し、参加者は834名となり昨年の808名を上回った。また、例年文化祭の折に設けて居る進学相談コーナーにも67件の相談があり、これも昨年の53件を上回った。 ・8/28に市内中学校教員との情報交換会を実施し、意見を収集、情報交換を行い連携を図った。 ・7月から10月にかけて、全教員が県内約400校及び隣接県の主な市町村の中学校を訪問し、本校の教育活動及び入学試験についての情報を提供し、かつ情報収集を行った。 ・校長が近隣の小学校を訪問し、高専紹介と理科啓発活動を行った。 ・5月から10月にかけて、約60名の1年生が、出身中学校を訪問し、学生の視点から本校の情報提供を行いPRを行った。 ・県内の中学校からの依頼による中学校主催の進学説明会に出席し、本校の入試状況等説明を行った。 ・県内の中学校からの依頼による、中学校の総合学習の一環である上級学校訪問を受け入れ、高専の位置づけ等を説明し、進路決定の参考となるようPRを行った。 ・私学対象の高校説明会に参加し、入学志願者及び保護者に対して説明を行った。また、愛知県私塾協同組合主催の学校説明会(尾張及び三河地区)に参加し、私塾講師に対して本校の説明を行った。 ・入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ、及び学科の紹介リーフレットを作成し、特にPRリーフレットは、県内全中学校及び隣接県の一部中学校の3年生全員の手に渡すよう送付した。オープンキャンパスチラシも同じく、県内全中学校及び隣接県の一部中学校の3年生の全クラスに掲示できるよう複数部を送付した。また、オープンキャンパスについては、新聞広告として2回にわたり掲載した。豊田市役所内にある記者クラブにもチラシを提供した。今年度のオープンキャンパスの参加者974名は昨年を137名上回った。 ③女子学生志願者の確保への取組計画 機械工学科棟の改修に伴い、女子トイレが1階から3階まで整備され数も増えた。</p>	<p>○ 合格者のレベルアップには至らなかったが、入試の採点方式を改善し、各種の入試広報を実施した結果、一定の志願者を確保できている。その他は、概ね計画どおり実施できている。</p>
<p>(2)教育課程の編成(学科及び専攻科の構成・改組等、専攻科の充実等)</p>	<p>①教育課程の改善を促すための取組計画 教育課程変更後の自己点検評価について、教育改善推進室が実施した授業改善に関するアンケート等の資料を基に、教務委員会が自己点検評価を行い、次年度以降に役立てる。 ②モデルコアカリキュラム(試案)への対応状況 学科及び専攻科の構成・改組等については、当面変更せず、モデルコアカリキュラムによる修正を含め、引き続き教育改善推進室、キャリア教育支援室等を中心に、社会情勢の変化等に対応した学科構成や専攻科の在り方等を不断に検討するとともに、外部有識者等の意見を積極的に取り入れる。 ③学習到達度試験の活用計画 機構が実施する学習到達度試験を第3学年全員に受験させ、学力の定着度を把握する。 ④高専の将来構想の検討 産業界や社会のニーズに応じた教育改善を行う。 ⑤専攻科の充実を図る計画 先導的創造科学技術開発費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座等に積極的に専攻科生を参加させるとともに、社会が求める先端技術に対応できる技術者を輩出する。 ⑥社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画 学生にボランティア活動や自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できるよう情報発信し、特に夏季休業中長期休暇を有効に利用し参加するよう引き続き、指導する。</p>	<p>①教育課程の改善を促すための取組計画 前期及び後期に教育改善推進室が実施した授業改善に関するアンケート等の資料を基に、自己点検評価を行った。 ②モデルコアカリキュラム(試案)への対応状況 モデルコアカリキュラムの達成目標に対応した新カリキュラム案を作成した。平成26年度には配当単位数の作成、時間割の確認、進級要件等細部を調整する。 ③学習到達度試験の活用計画 到達度試験の結果を基に、全国平均との比較、平均値の経年変化、学科別、領域別正答率を分析し、教員間で把握し、授業や補習で改善するよう努めた。 ④高専の将来構想の検討 次年度以降の実施に向けて、豊田市山間部の活性化等、地域の要請に応じた教育改善を行った。 ⑤専攻科の充実を図る計画 先導的創造科学技術開発費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを通して企業技術者との混成チームによるプロジェクト研究課題に取り組んだ(専攻科生 41名)。受講生にとって、技術者となるための素養と創造力を高める新たな目覚めとなった。 ⑥社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画 豊田市、NPO団体が募集している自然保護活動に関するボランティアに積極的に参加するよう学生に呼びかけた。また、地域との交流事業、ふれあい交流事業及び老人介護施設に学生会及び寮生会が主体となり随時ボランティア参加した。活動終了後には、単位認定申請書の提出・審査により特別校外実習として単位を認定した。ボランティアの内容は科目と関連しているため、専門科目の知識が深まった。</p>	<p>○ モデルコアカリキュラムの達成目標に対応した新カリキュラム案の作成を始めた教育課程の編成に係る改善を計画・実施し、中・長期にわたる将来を見据えた計画の検討を行っている。その他は、概ね計画どおり実施できている。</p>

豊田工業高等専門学校 平成25年度 自己点検評価書

	平成25年度年度計画(4月提出)の概要	平成25年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
<p>(3)優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD 等)</p>	<p>①企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画 教員の能力向上を図るため、各種研修会への積極的な参加について奨励している。企業や技術士会等を利用した研修については、参加等に向けて検討を行う予定である。</p> <p>②優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画 科学技術振興事業団の研究者人材ベースに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に教員公募に関する周知を行い、公募制を積極的に導入し、引き続き全国から多様な背景を持つ有能な人材の確保に努める。</p> <p>③女性教員採用についての具体的な取組計画 女性教員採用について、公募時に、能力等が同等であれば積極的に女性を採用する方針である旨を公募文に記載する。また、女性教員の業務軽減、非常勤講師の雇用等、必要な制度や支援策について検討を行い、女性教員が働きやすい職場環境の整備に努める。女性教員採用に伴う特別経費配分制度等を積極的に活用し女性教員採用に取組む。</p> <p>④他機関との教員交流 教員交流制度を活用し、他高等等との交流を積極的に行う。 ○平成22年度派遣1名 受入2名 ○平成23年度派遣0名 受入1名 ○平成24年度派遣1名 受入1名 ○平成25年度派遣0名 受入2名</p>	<p>①企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画 4月に新任教職員を対象とした新任者向け研修会を実施した。また、教員1名が、日本学生支援機構主催の学生相談・メンタルヘルス研修会に参加した。</p> <p>②優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画 教員公募(4件)にあたっては、科学技術振興事業団の研究者人材ベースに登録するとともに、高専機構本部及び本校のホームページへの掲載を行った。 また、学科によっては、全国から多様な背景を持つ有能な人材を確保するため、全国の高等専門学校及び同分野の大学等に周知した。</p> <p>③女性教員採用についての具体的な取組計画 教員公募の際、公募要領に「積極的な女性の採用」を明記した。その効果もあり、平成26年度4月1日付けで2名の女性教員の採用が予定されている。 また、女性教員が働きやすい職場環境として男女共同参画準備室を設置するとともに、「女性研究者研究活動支援事業」を活用し、平成25年度研究支援員1名を採用した結果、研究に十分な時間が確保できるような環境が整えられた。</p> <p>④他機関との教員交流 「高専・両技科大間教員交流制度」により、2名の受入を行った。次年度については、1名の派遣、2名の受入を行う予定である。</p>	<p>女性教員採用の促進に向けて、教員公募時の改善を行ったほか、女性教員が働きやすい職場として男女共同参画準備室を設置する等、職場環境の整備を行った結果、複数の女性教員を採用することができた。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>
<p>(4)教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、学校の枠を越えた学生の交流活動、インターンシップの実施、共同教育、企業人材の活用 等)</p>	<p>①自己点検評価への取組計画 自己点検評価した本校の管理運営、教育・研究に関する事項を検証し、改善等を図るため、外部評価委員会を開催する。</p> <p>②JABEE認定、機関別認証評価への取組計画 継続認定を受けたJABEEプログラムに基づき、教育の質の向上に努めるとともに、課題等について外部評価対応委員会へ対応していく。 平成26年度に機関別認証評価を受けるための諸準備を進める。</p> <p>③インターンシップの実施計画 第4学年で実施されている「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう、昨年に引き続き実施方法の改善に努める。 専攻科については、インターンシップの参加率を高めるよう引き続き努力する。</p> <p>④企業人材を活用した教育の取組計画 現役の企業技術者に先導的創造科学技術開発費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」のカリキュラムの講師として、一部の授業を担当していただく。</p> <p>⑤共同教育の実施計画 専攻科では、先導的創造科学技術開発費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにおいて、地元豊田市、商工会議所と連携して企業技術者とのCOOP教育などを含め、教育方法の充実、方策について検討を進める。</p> <p>⑥eラーニング及びICT活用教育の取組計画 共同教育について両技科大を始めとし、高専も含め多数の学校との、eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れ、引き続き学生へ提供する。</p> <p>⑦高専の特性を活かした教材や教育方法の開発、利活用 教育改善推進室において、本校の特徴を踏まえた教材や教育方法の開発に資するために、前期及び後期に各2週間の教員向け公開授業期間を設け、模範となる授業実践の参考としてもらっている。また、課題及びティーチングポートフォリオの資料等を全教科保存し、常時閲覧できる体制になっている。更にFDセミナー、シンポジウム等を開催し、教授法の情報交換を行い、教育の質の向上を図る。また、授業手法支援ツール(模範授業の映像化)については、本校だけでなく全国的に情報収集に努め、全教員が活用できるよう、更なる内容の充実を図り、運用内容を検討し、教授法の質の向上を図る。</p>	<p>①自己点検評価への取組計画 自己点検及び評価等実施委員会を2回(1月、2月)開催し、自己点検を行った3件の評価課題について、3月に外部評価委員会を開催した。</p> <p>②JABEE認定、機関別認証評価への取組計画 平成27年度に同時受審する継続認定中の5学科のJABEE受審に対応するため、タスクグループを組織した。 平成26年度に受審する機関別認証評価に対応するため、外部評価対応委員会を開催し、自己評価書作成に係る準備・情報提供等を行った。</p> <p>③インターンシップの実施計画 本科4年生を中心にインターンシップに概ね180名が参加し、就業体験した。インターンシップ期間が主に8月の夏季休業中のため、参加できる企業に制約があり、学生が希望する企業への就業体験が難しくなっていることから、夏季休業期間を大学と同じ9月に移動する教育計画の導入に向けた検討を行った。 また、専攻科では1ヶ月程度以上の長期インターンシップ先の開拓が思うように進まず、1～2週間程度の就業体験も視野に入れた指導をし、数人ではあるが参加した。</p> <p>④企業人材を活用した教育の取組計画 企業技術者OBを特命准教授として雇用し、「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムのスタッフとして、企画・運営並びに実習指導に携わってもらった。 また、企業技術者として活躍している本校の卒業生を講師として招き、キャリア形成に向けた講演会を行った。</p> <p>⑤共同教育の実施計画 専攻科では、先導的創造科学技術開発費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにおいて、地元豊田市、商工会議所と連携したCOOP教育を推し進めた。また、補助金終了後の自立化に向けて、教育体制の確立、教育手法の検討を行った。</p> <p>⑥eラーニング及びICT活用教育の取組計画 eラーニング高等教育連携に係る遠隔育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れた結果受講生は次のとおりであった。 【前期】長岡技術科学大学:19名、豊橋技術科学大学:27名、【後学期】長岡技術科学大学:23名、豊橋技術科学大学:1名、九州工業大学:2名 外部の関連科目を学ぶ機会が増え、ICT教育による学習習慣が定着するのに寄与した。</p> <p>⑦高専の特性を活かした教材や教育方法の開発、利活用</p>	<p>自己点検及び評価等実施委員会、外部評価委員会を開催し、自己点検評価を実施しているほか、機関別認証評価及びJABEE認定への準備等を行っている。 なお、本校の特徴を踏まえた教材や教育方法の開発については、実施できなかつたが、今年度の計画で、教育改善推進室において、本校の特徴を踏まえた教材や教育方法の開発を推進するための計画・検討を行うことを実施すること。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>

豊田工業高等専門学校 平成25年度 自己点検評価書

	平成25年度年度計画(4月提出)の概要	平成25年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
<p>(5) 学生支援・生活支援(メンタルヘルス、就学支援・生活支援、キャリア教育、図書館及び寄宿舎等)</p>	<p>①メンタルヘルスについての取組計画 機構等が開催する教職員を対象としたメンタルヘルス講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象とした講習会を開催する。 また、平成24年度に拡充した学生相談室を中心に学生のメンタルヘルスについての取組を強化する。 ②就学支援・生活支援の取組計画 1～3年次において、学年に応じた目的達成のため合宿研修を実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身につけさせるとともに、学生と教職員の交流を図る。 学生寮においては、高学年が新入生を指導、援助又は身近な相談者となり、学寮の運営が学生により実施することができるよう、指導学生研修会を実施する。 600名を超える寮生に対応するため宿日直体制を強化し、寮生の安全と安心を確保する。 また、学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知し、必要に応じて、説明会を随時実施する。 ③キャリア教育についての取組計画 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を見直し、資料室の拡大、進路検索システム利用の促進を図る。進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)を有効に活用しながら学生の就職及び進学に関して進路指導を丁寧に行う。 また、キャリア教育支援室を中心に、学習意欲の向上・学生の進路選択・決定のための支援活動を組織的に行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。同窓会との連携による模擬就職面接試験など実質的な就職活動の支援を行う。 ④図書館及び寄宿舎の整備計画 教育研究に資する図書を厳選して整備するとともに、視聴覚機器、マルチメディア機器を引き続き整備し、外部に開かれた図書館としてその役割を拡充し、図書館の利用を促進する。 学寮新舎による入寮定員拡充の次の段階として、既設寮の改修整備による学寮環境の質的向上について検討を進める。</p>	<p>①メンタルヘルスについての取組計画 第1学年には、学生相談室オリエンテーション、第2学年には「人間関係」の体験型講演会、第3学年には「こころを大切に」をテーマにした各クラス毎の講演会及び性格テストを実施し、その結果を解説した。さらに、全学生を対象に「こころ体の健康調査」を実施したところ、カウンセリングが必要となった学生が非常に多く、急遽カウンセラーを2名増員し、計4名体制で緊急度が高い学生から順次呼び出し、カウンセリングを実施した。 また、教職員には自殺予防をテーマに、精神科医を講師に招き、注意する学生のポイントなどすぐに役立つ実践的な講演会を実施した。 ②就学支援・生活支援の取組計画 第1学年合宿研修(1泊2日)、第2学年スキー教育(2泊3日)、第3学年交通安全教育(1泊2日)の合宿研修を授業時間外に実施し、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身につけさせるとともに、学生と教職員の交流を図った。 寮指導学生研修会を年2回(3/30～4/1、9/28～9/30)開催し、学寮の自治的運営のために学寮リーダーとして求められるリーダーシップを養成する場を設けた。 新規が1棟増設され、定員613名の寮生数になったことに伴い、学寮非常勤職員(学寮指導員)を3名雇用し、学寮スタッフの増強を図った。これに伴い、当直者数を増やし(平日宿直2名から3名、週末日直1名から2名)、当直方法の見直しを行った。このことにより、多人数の寮生数に対するサポート体制を強化した。 また、新入生用オリエンテーション時に学生及び保護者へ奨学金等の利用説明会を実施し、周知をし、さらに受付直前に在校生用説明会を年に2回実施し、申請漏れがないようにした。 ③キャリア教育についての取組計画 学生の進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報など閲覧できる資料室の充実、及び進路検索システムの利用促進を図った。特に求人情報等はタイムリーに電子化し、学生、教員へ提供した。さらに、1年次から進路決定に向けてのキャリア教育支援プログラム(各種講座や面接指導)により、学生の就職及び進学に関して必要な行事、講演及び体験を計画的に実施した。 また、本校同窓会との連携による模擬就職面接試験など、より実践的な就職支援を行い、学生から就職試験に際し、自信を持って望むことができたこと好評を得た。 ④図書館及び寄宿舎の整備計画 ・フックアップの実施と各学科からの要望を取り入れた専門書の購入により図書の充実を図った。また、入館ゲートの改修により、より利用しやすい環境作りに努めた。 ・学寮の共有スペース(浴室、集会室、学習スペースなど)の整備については、さらなる改善策について、検討を進めている段階である。</p>	<p>自己評価</p> <p>○ 学生寮の増設により、環境の質的向上が図られ、寮生数が増えたことに伴い、学寮スタッフの増強及び当直者数の増員を図ったことにより、多人数の寮生数に対するサポート体制の強化が図られている。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備等)</p>	<p>①施設マネジメントの取組状況 施設整備計画委員会・施設整備専門部会・環境管理委員会を整理・統合して、施設環境整備委員会を立ち上げ、同委員会において、校舎・実験施設等の教育施設の老朽度・狭小化やバリアフリーへの対応状況、実験器材・棚等転倒防止策等についての点検評価作業などの検討を行う。また、同委員会では、施設・設備の基本計画、効果的・効率的な使用などの検討を進め、各種委員会において、特に、学生課事務室、福利厚生会館、学生寄宿舎の配置、整備等について検討を行い、学生間及び学生と教職員とのコミュニケーション向上の場を設ける等、学生にとってより快適な環境整備を図るため、年次計画を立て計画的に進める。 ②施設整備計画 平成24年度補正予算による教育研究設備の調達契約による早期の整備を図る。 ③環境配慮への取組計画 温暖化効果ガスの削減を図る。</p>	<p>①施設マネジメントの取組状況 ・環境目標及び取り組み内容を検討し、実施した。 ・老朽改善として校舎(一般学科・管理棟)改修の要求内容を検討した。 ・営繕事業の緊急性と優先度から要求内容を検討した。 ・学内営繕工事においては緊急性の高い内容から検討し、実施した。 ②施設整備計画 平成24年度補正予算(予備費)による校舎(機械・一般棟)改修工事を実施した。 ③環境配慮への取組計画 外灯及び図書館、体育館、及び棟内廊下など、共用施設における照明に対してLEDへの設備更新を実施した。</p>	<p>○ 機械工学科棟の改修工事の実施等により、施設面における教育環境の整備が図られている。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>
<p>[2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理等)]</p>	<p>①外部資金獲得への取組計画 ○平成21年度に採択された先導的創造科学技術開発費「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムは5年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため4期目の受講生を受け入れる。 ○科学研究費補助金は、全教員申請を原則とし、応募のためのガイダンスを開催する等申請をアシストし、獲得に努める。 ○受託研究・共同研究の受入を促進する。また、各種研究助成金の情報提供を積極的に行い、積極的 に外部資金獲得に努める。 ②産学連携についての取組計画 テクノコンプレックスを中核機関とし、高度技術教育、教員研究及び地域の企業との共同研究を推進する。 豊田市、豊田商工会議所、豊田高専で運用する「とよたイノベーションセンター」を中心に、人材育成、技術相談、新技術開発などを進める。 ③知財管理についての取組計画 長岡・豊橋両技科大との連携のもとで設置された「スーパー地域産学連携本部」の活用により、各高専の研究成果の円滑な知的資産化を促進するとともに、昨年度構築した知的財産管理システムの運用に併い、知的財産を有効かつ効率的に活用する。 また、教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催する。また、特許出願を支援する。</p>	<p>①外部資金獲得への取組計画 ・平成21年度に採択された先導的創造科学技術開発費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムは5年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる創造力豊かなリーダー技術者の養成を目指し、4期生32名を受け入れた。また、平成25年度をもって、同事業の補助金が終了するため、平成26年度からの自立化について検討を行い、豊田市・豊田商工会議所・豊田高専の3者連携機関である「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとして、プログラムを実施することとなった。 ・10月上旬に企業から講師を迎え、外部資金獲得に向けた講演会を開催した後、担当事務職員による科学研究費補助金申請に係る説明を行った結果、52名(継続者除く。)が申請した。 ・受託研究・共同研究の受入を促進し、また、各種研究助成金の情報提供を行い、積極的な外部資金の獲得に努めた。 受託研究:1件、共同研究:7件、奨学寄附金:11件 ②産学連携についての取組計画 テクノコンプレックスを中核機関とし、高度技術教育、教員研究及び地域の企業との共同研究を推進した。共同研究:7件。 豊田市、豊田商工会議所、豊田高専の3者連携機関である「とよたイノベーションセンター」を中心に、人材育成、技術相談、新技術開発などを進めた。 ■人材育成・・・製造技術者育成プログラム修了者数:67名 ■技術相談・・・84社(市内74社・市外10社、新規69社・リピーター15社)うち専門家派遣8社、相談件数 237件(平成26年2月末現在) ■新技術開発・創出支援・・・ものづくりセミナーの開催(4回、参加者合計267名。)、3Dプリンター出力サービスの開始。(平成26年1月より。) ③知財管理についての取組計画 担当職員を特許庁主催の講習会及び機構本部の知的財産セミナーに派遣した。また、教職員の知財に関する知識を向上させるため、担当者以外の職員を機構本部の知的財産に関する講習会に参加させるとともに、校内で開催した専攻科向けの知的財産セミナー(高専機構・日本弁理士会主催)に教職員を参加させた。</p>	<p>○ 外部資金獲得において、有効な取組を計画・実施しており、「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムは平成26年度からの自立化に向けた検討を行った結果、「とよたイノベーションセンター」の事業の一つとしてプログラムを実施することとなったことや「とよたイノベーションセンター」を中心に、人材育成、技術相談、新技術開発等について、一定以上の実績があったことは、産学の連携が順調に行われている。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>

豊田工業高等専門学校 平成25年度 自己点検評価書

	平成25年度年度計画(4月提出)の概要	平成25年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入体制の強化、外国人留学生に対する研修旅行の実施等)】</p>	<p>①地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等) ○科学技術戦略推進費「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市、豊田商工会議所と連携し地域の技術者育成に貢献する。 ○豊田市ものづくり人材育成講座「製造技術者育成プログラム」に会場の提供及び講師の派遣を行う。 ○豊田市、豊田商工会議所と本校との三者連携による「とよたイノベーションセンター」の運営に関する協定を更に実質的なものとして、内容の充実を図る。 ○昨年締結した豊田信用金庫、今年3月に締結した豊田市との包括連携協定などを活用し、地域産業との連携を強化する。 ②小中学校と連携した理科教育支援への取組計画 ○小中学校向けの出前授業や理科教室を通じて、地域の小中学校に積極的に働きかける。 ○地域とのネットワークを構築する事業を展開しながら、理科教育の支援を行う。地域の小学生も含めて、ものづくりを体験させ、科学への理解の増進を図るため、「とよた高専おもしろ科学教室」を開催する。 ③地域共同テクノセンター等の活用計画 現状を維持しつつ、豊田市及び豊田商工会議所との三者による「とよたイノベーションセンター」の拡充状況に応じ、整備計画を作成する。 ④卒業生ネットワークの構築並びに活用計画 同窓会組織等と連携し、卒業生による在校生のための講演会、講習会及び交流会を開催するなど、卒業生とのネットワークの活用を引き続き計画する。 ⑤国際交流協定の締結 国際交流協定の締結を含め、国際交流委員会において、教員の海外の教育機関との学術交流の方策について検討を進める。 ⑥学生の海外派遣計画 多くの学生が、幅広い知識・経験を積むため、海外留学しているが、海外奨学金情報の提供等を始めとして、積極的にサポートする。 また、東海地区の高専と連携して専攻科生の海外インターシップを進め、国際交流への道筋を探る。 ⑦留学生の受入体制の強化計画 留学生受入拡大に向けた寄宿舎内の留学生スペース等の整備を検討する。 ⑧外国人留学生に対する研修の実施計画 留学生に日本の歴史・文化に触れさせる研修旅行(日帰り)を年1回実施するとともに、東海地区留学生交流会を本校主催で開催する。</p>	<p>①地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等) ・平成21年度に採択された先導的創造科学技術開発費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し、地域の技術者養成に貢献した。 ・「製造技術者育成プログラム」に会場の提供及び講師の派遣を行った。 ・豊田市、豊田商工会議所、本校の三者連携機関である「とよたイノベーションセンター」の運営に関して協定に基づき、活動の活性化を図った。 ■人材育成・・・製造技術者育成プログラム修了者数:67名 ■技術相談・・・84社(市内74社・市外10社、新規69社・リピーター15社)うち専門家派遣8社、相談件数 237件(平成26年2月末現在) ■新技術開発・創出支援・・・ものづくりセミナーの開催(4回、参加者合計267名。)、3Dプリンター出力サービスの開始。(平成26年1月より。) ・豊田市との包括協定に基づき、とよた防災フェスタへの参加、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」への申請を行い、平成26年度小水力発電アイデアコンテストの開催に向けて、準備を開始した。また、連携機関等による第1回連携協議会が開催され、各大学等と豊田市との連携状況、事業計画等について情報交換を行った。(11月) ②小中学校と連携した理科教育支援への取組計画 ・小中学校向けの出前授業や理科教室を通じて、地域の小中学校に積極的に働きかけた。 ・地域とのネットワークを構築する事業を展開しながら、理科教育の支援を行う。地域の小学生は勿論、全国から参加者を集め、ものづくりを体験させ、科学への理解の増進を図るため、「とよた高専おもしろ科学教室」(講演と理科工作教室)を開催した。 公開講座 10件 出前授業 25件 地域貢献事業 15件 理科工作教室 1件 ③地域共同テクノセンター等の活用計画 地域共同テクノセンターを「とよたイノベーションセンター」における産学官連携活動の拠点として整備し、人材育成事業、技術・経営支援事業を推し進めた。 ④卒業生ネットワークの構築並びに活用計画 同窓会組織と連携し、平成25年11月に本校の創立50周年記念事業(ホームカミングデー、また、創立50周年記念式典、講演会及び祝賀会等)を行った。 また、同月には、同窓会組織と連携し、15名の卒業生による5学科の在校生を対象とした講演会を開催した。また、平成26年3月に、同窓会主催による新第5学年を対象とした模擬面接講座を実施した。 ⑤国際交流協定の締結 国際交流委員会において、協定の締結について情報収集し、鋭意検討した。 ⑥学生の海外派遣計画 AFS、YFUを利用した海外派遣を積極的に支援し38名の留学を許可した。また、ドイツアヘン大学へも1名派遣した。 ⑦留学生の受入体制の強化計画 平成25年3月に「創志寮」が完成したことにより、平成25年度受入に関して、留学生スペースを確保した。 ⑧外国人留学生に対する研修の実施計画 国宝大山城及び明治村を訪れ日本の文化を研修した。また、東海地区高専留学生交流会を主催し、東海地区5高専の留学生が参加し、スキー実習や飛弾高山の山車に触れるなど交流を図った。</p>	<p>自己評価</p> <p>「ものづくり-気通観エンジニアの養成」プログラムの実施及び豊田市との包括協定に基づいた各種イベントの実施・協力により、地域の技術者育成への貢献ができています。 また、国際交流等については、学生の海外派遣の支援及び留学生の受入について、目標以上の実績・結果を残している。また、国際交流協定の締結に向けて、引き続き、教員の海外の教育機関との学術交流を進め、情報収集し、検討する必要がある。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>
<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流 等)】</p>	<p>①危機管理への対応 総合的な危機管理マニュアルの作成に向け、情報収集及び検討を行う。また、既存の「災害・緊急事態対応マニュアル」の内容を点検し、必要に応じて見直しを行う。 ②校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応 内部監査の強化及び外部監査におけるフォローアップを図る。 ③公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況について 学内で開催する科研費説明会において、不正受給等の取り扱いや、高専機構のHPIに掲載されている「研究不正に対する取組」の概要について、周知する。 ④教職員の服務監督・健康管理 ○総務課事務室にある出勤簿へ出勤後押印させ、休暇簿についてもその場で記入する方法により、出勤・休暇状況の把握を徹底する。 ○健康管理については、例年どおり、健康診断(定期・特別)ほか人間ドック受診促進及び産業医による健康管理講習会を実施する。 ⑤職員に対する研修の実施・参加計画 教員については教員教育研修会への参加を勧め、事務職員や技術職員については、能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会に、積極的に参加させる。また、新任教職員に対しては、年度早々に研修を行い、その他教職員の必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。 ⑥人事交流計画 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行う。事務職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、豊橋技術科学大学、岡崎統合事務センター等)と積極的に交流を進める。 ⑦資産の有効活用方策、IT資産の管理 IT資産管理システムにより、図書・情報係においてライセンス管理を行っている。 また、教職員がライセンスにより購入したソフトウェアについては、図書・情報係において管理を行う。</p>	<p>①危機管理への対応 総合的な危機管理マニュアルの作成に向けて情報収集を行った。また、「災害・緊急事態対応マニュアル」の内容を点検し、災害時の緊急連絡(参集)体制について見直しを行った。 ②校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応 監事監査・内部監査の指摘事項については、グループウェア及び会議で学内周知し、注意を促した。 また、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応として、教職員への公的研究費使用にあたってのマニュアルの配付と説明会の実施、業者からの誓約書徴取等を実施した。 ③公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況について 校内における外部資金説明会において、「研究費の不正使用、研究における不正行為の防止について」の資料を配付して、その周知を図った。また、「公的研究費使用マニュアル」を全教職員に配付して、説明会の開催等を実施し、内容の周知徹底を図った。 ④教職員の服務監督・健康管理 出勤後速やかな出勤簿への押印を徹底し、また、事務室において、教員に対し、休暇簿の記入方法の指導を行うことにより、出勤・休暇状況を把握した。また、例年どおり、健康診断(定期・特別)を実施し、人間ドックの受診を促進し、健康管理の把握に努めた。 教員に対する研修の実施・参加計画 教員については、高専機構主催の新任教員研修会及び英語授業講義力強化プログラムに参加させた。事務職員や技術職員については、能力の向上を目指した国立大学法人、人事院などが主催する研修会に参加させた。また、新任教職員に対しては、4月に研修を行い、その他教職員の必要に応じて業務に関係する各種研修を行った。 ⑥人事交流計画 教員については、「高専・両技大間教員交流制度」による交流を積極的に行った。事務職員については、近隣の機関(名古屋大学、岡崎統合事務センター等)と人事交流を行った。また、技術職員については、沼津高専と短期間人事交流(1週間)により、2名の派遣、1名の受入を行った。 ⑦資産の有効活用方策、IT資産の管理 IT資産管理システムにより、適正なライセンス使用の管理を行った。</p>	<p>自己評価</p> <p>教員については、「高専・両技大間教員交流制度」による交流を積極的に行った。事務職員については、近隣の機関と人事交流を行った。また、技術職員については、沼津高専と短期間人事交流により、2名の派遣、1名の受入を行い、人事交流を実施している。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>

豊田工業高等専門学校 平成25年度 自己点検評価書

	平成25年度年度計画(4月提出)の概要	平成25年度実績報告(自己点検内容)	自己評価
【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し、施設マネジメント、整備計画等)】	<p>①一般管理費の縮減取組計画 光熱水料の一層の縮減を検討する。</p> <p>②随意契約の見直し状況 平成21年度に機構本部から示された「一者応札・応募に係る改善方策について」に基づき、引き続き、契約手続きの改善を図る。</p> <p>③施設マネジメント、整備計画 安全で快適な教育環境の充実のため、施設環境整備委員会における環境指針の策定による省エネ対策を引き続き行う。</p>	<p>①一般管理費の縮減取組計画 光熱水の使用状況を常に把握することにより、電気・ガスについては、空調温度設定の徹底を図り、さらに使用実態の調査として、各部屋の巡回を実施して、不適正な場合は、その改善を図り、使用料の抑制を図った。また、水道については、元メーターの日々確認により、漏水における早期把握に努め、さらに学寮における地下水の飲料化により、使用料の大幅な改善を図ることができた。</p> <p>②随意契約の見直し状況 ・入札説明書を渡し、応札しなかった業者への理由の確認を図った。 ・仕様内容については、より多くの業者が参加ができるように努めた。 ・2週間程度の公告期間を確保するように努めた。</p> <p>③施設マネジメント、整備計画 省エネ対策として、専攻科棟、情報工学科棟、図書館、第2体育館、卓球場、校内外灯の照明をLED照明器具に交換した。</p>	<p>◎空調温度設定の徹底、各部屋の巡回等により電気・ガス使用料の抑制を図った。また、水道については、元メーターの日々確認及び学寮における地下水の飲料化により、使用料の大幅な改善を図ることができた。その他については、概ね計画どおり実施できている。</p>
【6. その他】	<p>平成25年11月に創立50周年記念式典、講演会及び祝賀会を挙げる。</p> <p>○記念事業として体育館音響設備、グランド照明設備、風力・太陽光発電タワーを設置する。</p> <p>○記念誌を刊行する。</p> <p>○ロゴデザインコンテストにより、本校のロゴを制定し活用する。</p> <p>○記念植樹を実施する。</p> <p>○学生支援基金の設立を行う。</p>	<p>創立50周年記念事業 平成25年11月2日にホームカミングデイ、また11月9日に創立50周年記念式典、講演会及び祝賀会を挙行した。</p> <p>○記念事業として体育館音響設備、グランド照明設備、風力・太陽光発電タワーを設置した。</p> <p>○記念誌を刊行した。</p> <p>○ロゴデザインコンテストを実施し、入賞作品をホームページで公表した。</p> <p>○記念植樹を実施した。</p> <p>○学生支援基金の設立に向け、支援基準等について学内で検討した。</p>	<p>◎ホームカミングデイを実施する等、創立50周年記念事業として記念式典等の実施のほか、風力・太陽光発電タワーの設置等の各種事業を計画どおり実施している。</p>